平成15年11月20日　発行

vol. 52
November
2003

IUHW

The gazette of International University of Health and Welfare

発行：学校法人国際医療福祉大学
編集：広報委員会　☎0287-24-3000
ホームページアドレス：http://www.iuhw.ac.jp

IUHW "誌上大学説明会"
医療と福祉の道を目指すあなたへ

39人の学生たちが見た海外
アメリカ・ベトナム・オーストラリア
—海外研修・活動報告

国際福祉機器展（HCR）に参加して
国際協力報告会が風花祭で開催
作業療法学科会・同窓会が開催
大学院博士前期・修士課程1年研究報告会・報告
看護学科公開学習会開催
　臨床から学ぶ—これからの看護学実習にむけて
第33回理学療法科学学会学術大会報告
日本病院管理学会第219回例会が
本学東京サテライトキャンパスで開催

◆「人」第2回
「共に生きる社会」
国際医療福祉大学学長　谷　修一

◆連載エッセイ「見・聞・録」第2回
「ああ！　ナイロビ！」
大学院教授・国際部部長　長谷川豊

◇コラム「大学の御神輿」

特集

もう一つの風花祭
ボランティア "かざはな"の二日間

Information
附属熱海病院／国際医療福祉病院・介護老人保健施設マロニエ苑・にしなすの総合在宅ケアセンター・特別養護老人ホーム栃の実荘／国際医療福祉リハビリテーションセンター／山王病院／医療福祉チャンネル774／国際医療福祉大学出版会

Reportage【ルポ】
特集
IUHW feature articles

もう一つの風化祭 ボランティア“かざはな”の二日間

学生ボランティア「かざはな」の存在をご存じだろうか。登録者数一八四名、わが国際医療福祉大学には、多くの学生ボランティアが忙しい授業の合間を縫って活動している。彼らは、キャンパスに隣接して建つ国際医療福祉リハビリテーションセンター内の、重症心身障害児施設「なす療育園」（三階、那須療護園（二階、デイセンター（一階、そして、おおたわら総合在宅ケアセンターで、食事介助のほか、レクリエーション、外出介助、話し相手といった入所者さんとのふれあい活動を行っている。リハビリテーションセンターができたのを機に「大学と施設が同じ敷地内にあるのだから、ぜひ学生たちにボランティアをする機会を与えたい」という鈴木五郎医療福祉学部長の発案で発足したこのIUHWボランティアセンターも、今年で四年目を迎える。

取材協力
IUHWボランティアセンター（国際医療福祉リハビリテーションセンター内）
同センター・二見令子、医療福祉学科・大石剛史

※表紙および本記事中の写真掲載にあたっては、入所者本人および関係者の了解を得ております。

このボランティア「かざはな」の年中行事の一つに「かざはな満喫ツアー」というものがあるが、これは、施設の利用者さんに、風花祭が開催される二日間、自分たちの文化祭を楽しんでもらおうと組まれた、約一時間のキャンパス巡りのツアーである。未来の介護者たちの文化祭を、利用者さんはどのように感じたのだろうか。また、実際に車いすを押して案内した学生ボランティアたちは、どのような思いを持ったのだろうか。ツアー二日目の十月十五日、この日第二陣のツアーに同行してその奮闘振りを取材した。

（取材・文：編集部　写真：加藤文哉）

＊　＊　＊

この「満喫ツアー」は、あらかじめ決められたキャンパス内の「ツアーコース」を回るのだが、コース内のF棟ロビーには、「かざはな」のメンバーが準備したという、入所者さんが描いた絵の展示コーナーなども設けられている。自分が描いた絵が展示されているのを見た後、模擬店が並ぶ最も賑わう道に出ると、学生たちからも、「買いませんか！」の声がかかる。学生お手製の焼きそばなどを買い、L棟前に設けられたステージでの演奏を聴くなどして帰路に着くのだが、途中道路に出る箇所の段差にはスロープが設置されており、危険のないように配慮がされている。これも彼らの事前の調査によって設置されたものだ。

「皆さんのお手持ちの袋には、入所者さんが模擬店で買った食べ物を食べる際に補助的に使う紙皿とスプーン・フォークが入っています。ジャガイモなどが大き過ぎた場合はこの上で小口に切って差し上げてください。それから口の周りなどを拭いて差し上げる紙ナプキン、また、購入した物を入れる袋も今回から追加しました。」

ツアー開始の三十分前に、リハセンターの会議室に集まったボランティアたちは、まず、今回のツアーのリーダー、荒井恵子さん（作業療法学科二年）から、携帯する「袋の中身」の説明を聞く。

次に、那須療護園生活支援員の平野崇夫さんから、今日それぞれが担当する入所者さんが発表され、その一人ひとりの食事、意志疎通、車いすの三点についての介護の留意事項が告げられる。

「Aさんは、食事については普段はキザミを食べていますので、たぶん原型大の大きさだと、ご本人から細かくして欲しいという要望があると思います。その場合は、一口大の大きさに切って食べさせて差し上げる介助をお願いします。

また、意志疎通については、こちらの話していることは分かります。ただ言語障害があり、聞きづらいことがありますので、分からないときは曖昧にしないで何回か聞くこともかまいません。きちんと自分が理解できるまで確認を取ってください。あまり何回か聞くのに気がとがめると思うときには、付き添いの職員さんに声をかけてください。

普段Aさんは施設内では歩行器を使って歩行していますが、今日は人が大勢いたり、慣れない場所で段差がある場合もありますので、車いすを使います。」

自分が担当する入所者さんについての説明を聞くと二階に移動、いよいよ対面である。施設職員から紹介されると、皆一様に緊張が増してくるようだ。入所者のお一人に、「どうですか？　いつもと違って娘さんや息子さんのような介護者ですが。」とうかがうと、

「この日を楽しみにしていました。天気がよくて本当によかったです。」

と、笑顔で答えてくれた。

こうして二人一組になったボランティアたちは、仲間のバンド演奏や笑い声、模擬店で売る焼きそばの匂いの雑踏の中へ、車いすを押して出て行く。

約一時間という短い時間ではあったが、入所者さんは、学生たちの文化祭をどのように感じたのだろう。お一人にその感想を聞いた。

「自分は歩けるので、たまには一人で外に出るときもあるんですが、やっぱり一人ではねぇ。そういうときは、話し相手がいればなぁと思うんですが、今日は本当に楽しかったです。できたらこういうことを何回かやってほしいと思いましてね。それに、自分で描いた絵を、ああいうところ（展示コーナー）に貼ってもらって有り難いなと、みんなに見てもらって、いいなと思いましたね。大勢の人が自分の絵を見てくれているのを見て、これからも絵を描いていく張りができました。」

絵を描くのが何よりの楽しみだというこの方は、学生とのふれあいが余程楽しかったのか、若い頃の話も交えて、終始笑顔で語ってくれた。

一方参加した学生たちは、

「すごい楽しかったです。たくさん話しかけていただきコミュニケーションが取れました。入所者さんの言いたいことが一回で分からなくて困ったこともあったんですけど、何回か聞き返していたら聞き取れて、気持ちが伝わると楽しいな、というのが実感できました」（OT二年・二見早紀さん）、「私が担当した方は発声が難しい方でしたが、理解はしっかりしているので、選択肢を出すような形でうかがいました。例えば欲しい物を聞く場合でも、『ありますか？　ないですか？』という選択肢を出すと、どちらかで頷いてくださるので、そこで判断するようにしました。帰って来たときに『楽しかったですか？　顔を覚えておいて下さいね、また来ますね』って言ったら、笑顔で頷いてくれて、ノートを出して『名前書いてちょうだい』って言われたのが、すごく嬉しかったです」（ST二年・金子美幸さん）、「私は医療経営管理学科なので障害者の方と触れあう場が少ないのですが、だからこそボランティアを通して入所者さんと接して行きたいと思い、活動を続けています」（HM二年・笹沼沙織さん）、「普段だと、あまり人のことを考えないで物を言ったりするでしょう。でも、ボランティアやってみて、人を気遣うということが分かったんです」（PT一年・山本寛孝さん）などとそれぞれの感想を語ってくれた。

今回のリーダーの荒井さん（前出）は、「夏休み中から職員さんたちとも打ち合わせして長い時間をかけて準備をしてきましたが、あっという間に終わってしまったという感じです。このツアーは、あくまでもボランティア活動の一部であるわけですが、率直に言って〝楽しかった〟というのが感想です。模擬店やバンド演奏といった形で風花祭に参加した人たちも、準備段階から本当に大変だったと思いますが、私たちもまったく同じ感覚で〝楽しかった〟というのが実感です。」

とほっとした表情で話してくれた。

＊　＊　＊

施設の入所者さんにも文化祭に参加していただくという方法で、自分たちの文化祭に参加した学生ボランティアの面々。参加者全員が異口同音に言う、入所者さんをお世話することが「楽しかった」という言葉が印象的だった。自分の目指す福祉の道を、こうした形で「楽しい」と感じ、意欲的にとらえることができれば、これほど素晴らしいことはない。

風花祭を終え、彼らは今日も通常のボランティア活動を「楽しんで」いるのだろう。

医療と福祉の道を目指すあなたへ

IUHW誌上大学説明会

国際医療福祉大学に入学して、医療と福祉について勉強したいと思うのですが…

志望学科は決まっているのですか？

いいえ。

では、将来の志望職種は？

それもまだ…

実は、耳にする職種はあるのですが実際にはどのような仕事をするのかが分からなくて。

そうですか、では、各学科の説明をお聞き下さい。本学には二学部八学科がありますので、八つのブースを順に回られるのが良いでしょう。

ハイ。

■ 保健学部

1 看護学科

中西睦子学科長

■看護学科ではどのようなことを学ぶのですか。

高度化する医療に適応できる専門性と人に対する深い思いやりの心を育てます。高度化する医療技術、看護ケアを必要とする人々の多様化などを背景に、看護職が持つ役割は、ますます専門かつ広範囲なものとなっています。看護学科では、このような時代の変化に合わせて、最新の理論と実践の両面から高度な看護技術を習得できるカリキュラムを設けています。中でもコミュニケーションの能力の向上を重視。人を思いやる心を育てることはもちろん、自ら意思決定できる判断力、何事にも柔軟に対応できる適応力を四年間で磨いていくことができます。

■勉強や実習についていけるのでしょうか？

基礎固めは、がっちりと。勉強も実習も積み重ねが大切です。まず、四年間の学習の流れを説明します。

一年次＝ 初歩的な看護知識を身につけ、専門的な学習への基礎を固める。

二年次＝ 講義や実習を通して、人間の健康と病気について理解する。

三年次＝ 高度な看護理論と臨床実習で、看護職としての専門性を深める。

四年次＝ 保健師や助産師についても学び、国家試験に向けた学習に取り組む。

※（助産は、選抜制）

基礎を大切にすることで、勉強も実習もクリアすることができます。四年間を過ごすには、気力・体力も必要です。大学生活をエンジョイしながら、専門的な知識を身につけていってください。

2 理学療法学科

丸山仁司学科長

■理学療法とはどのようなものですか？

病気、ケガ、寝たきり等の原因で身体が不自由になった人々に対し、運動や物理的手段を用い、身体機能の回復や維持を図る医療行為です。具体的には寝返り・立ち上がり・歩行等の基本的な動作を改善することで社会復帰を支援します。

一般病院、施設、在宅、スポーツ、教育機関等の幅広い活躍の場が用意されていますが、豊かな発想力や行動力で、今後職域を広げていくことも使命の一つです。

■カリキュラムはどのようになっているのでしょう。

一、二年では基礎医学や臨床医学等を学び、三、四年では臨床実習があり、また卒業研究、国家試験対策等の勉強をします。当学科ではさまざまな専門性を持つ教員の下で、実践的な知識・技術や多様な研究課題、国際協力等、幅広い興味や希望に応えられる環境です。

■学科の特徴を教えてください。

学科長をはじめとしたアットホームな雰囲気の中、多くの学科行事を楽しみ、深く学び、自学の精神を学ぶことで、高い理学療法士としての資質を養うことができます。

3 作業療法学科

杉原素子学科長（学部長）

■理学療法と作業療法の違いは何ですか？

違いを考える際には、法律の文言にもどると良いでしょう。「理学療法士及び作業療法士法」（昭和四〇年制定）によると、理学療法の対象は「身体に障害のある者」、作業療法は「身体または精神に障害がある者」としています。また、理学療法は「治療体操などの運動を行わせたり電気刺激、マッサージなどの物理的手段」を治療手段、「主にその基本的運動能力の回復」を目的としています。作業療法は「手芸工作その他の作業」を治療手段とし、「主としてその応用的動作能力や社会的適応能力の回復」を目的とします。

■では、手工芸などが得意でないと作業療法士にはなれないのですか？

いいえ、得意である必要はありません。ただし、機能回復の手段として手芸等の活動を適用することがあるので、そのような活動に興味を持つことは必要となります。作業を治療的に用いるわけですから、どのような状態像の人にどのような活動を提供するのかが明確にできないとなりません。上手に作業活動ができることよりも分析的な視点が重要になり、そのような勉強をします。

4 言語聴覚学科

伊藤元信学科長

■言語聴覚士とはどのような職種ですか？

失語症・聴覚障害・言語発達障害・発音障害・嚥下（えんげ）障害など、言葉や、聞こえや、食べたり飲み込んだりすることなどに困難が生じた方に対して、問題の性質を明らかにし、障害からの回復や発達を促すための援助を行う専門職です。障害は多岐にわたり、乳児から高齢者まで幅広い年齢の方が対象となります。

■就職状況はどうですか？

言語聴覚士が働く場所は病院等の医療機関のほか、自治体や民間の福祉施設などです。言語聴覚士の数はとても不足しているため、年々求人数が増加しており、就職の心配はまったくありません。

■学科での学習内容を教えて下さい。

本学言語聴覚学科では、日本有数の学識・臨床経験豊かな教授陣が丁寧に学習指導するとともに、他校に類のない充実した設備を有する附属の言語聴覚センターなどで臨床実習を行います。四年間で、国家資格の取得を目指して、言語聴覚障害に関する専門分野と、医学・心理学・言語学などのさまざまな専門基礎分野について学習します。

5 視機能療法学科

新井田孝裕学科長

■視能訓練士（ORT）とはどのような職種ですか？

視能訓練士は一九七一年に制定された視能訓練士法によって誕生した国家資格を有する医療専門職です。当初は小児の斜視・弱視の検査と訓練が主な業務でしたが、少子高齢化、眼科医療の高度化・専門化に伴い、現在では眼科領域の視機能検査が主たる業務になっています。さらに保健・福祉分野での包括的サービス、視機能の改善・予防という観点からリハビリ指導や各種健診での視機能の評価も重要な業務になってきています。

■視能訓練士の就職状況について教えてください。

本学科ではまだ卒業生を出していませんが、他の養成施設での就職率はほぼ一〇〇％です。就職先の九七％が病院、診療所等の眼科です。国内で一万三〇〇〇名の眼科医に対して視能訓練士の総数は五〇〇〇名と非常に少なく、需要に応じきれていないのが現状です。大学卒業後、大学院に進学する学生も増えてきています。今後、社会のニーズに対応して視覚障害者の更正施設や職業訓練施設への就職の増加が期待されています。

6 放射線・情報科学科

飯沼一浩学科長

■他の大学にはない特徴はなんですか。

教員と設備がともに充実していることです。二〇名の権威ある専門家が専任の教員として日々熱心に教育に当たり、X線装置、CT装置、MR装置、放射線治療装置、その他の大型機器がすべてそろっている大学は他にはありません。知識だけでなく「豊かな人間性を育む」ことを学科基本方針の第一にあげています。

また、コメディカルの総合大学として、チーム医療に必要な他職種の知識を学び多くの友人を作ることができるのも他の大学にはない大きな特徴です。

■放射線被曝の危険はないのですか？

放射線の危険性を一番よく知っているのが診療放射線技師です。現在では十分に管理され、被曝による障害などはまったくありません。

■ 医療福祉学部

7 医療経営管理学科

水巻中正学科長

■なぜ医療経営管理学科の就職率は過去三年間で九五％前後と高いのですか？

病院や福祉施設、医療福祉関連企業が、医療や福祉の「専門知識」を持つ事務・管理職を望んでいることにあります。日本では今後医療費等の抑制が進められ、病院や福祉施設の経営は苦しくなり、適確な経営が必要になります。そのとき経営をきちんとできる人が必要なのです。

■医療経営管理学科で所定の科目を取ると受験資格ができる。診療情報管理士とは何をする資格でしょうか？

カルテの情報を管理・分析する専門職です。どのような治療法が有効か、患者様への安全・安心な診療か、経営に貢献するか、などを分析します。現在、病院には大変不足していて、就職は良好です。

■医療経営管理学科を卒業するとどんな仕事をするのでしょうか？

病院の経営戦略を考える企画部門や、カルテ情報を管理する診療情報管理部門、医療費を請求する医事部門などさまざまです。

また、病院だけでなく、経営学の知識を生かして、医療関係の企業や一般企業（JRや銀行など）に就職する人も結構います。そういう人は経営学部や経済学部卒業生と同じような仕事をしています。

8 医療福祉学科

鈴木五郎学科長（学部長）

■どのような専門職を養成しているのですか。

高齢者や障害者、児童家庭、低所得者などさまざまな社会的な支援を求める人々に対して的確な社会サービスの情報提供、相談、福祉サービスのマネジメントを行い、生活自立を支援する福祉専門職を養成します。

■どのような資格に挑戦できますか。

卒業時には全員が社会福祉士の資格を取得することを目標としています。プラスして、精神保健福祉士（選択）の受験資格取得も可能です。また、介護福祉士コースを選択した学生は卒業と同時に介護福祉士資格を取得できるとともに、併せて社会福祉士の受験資格も取得できます。

▼入試についてのお問い合せは、〇二八七（二四）三三〇〇（大学入試課）まで。

Date:july~August

39人の学生たちが見た海外―海外研修・活動報告

7/28～8/11

アメリカ ベトナム オーストラリア

恒例になった本学の「海外研修・活動」だが、本年は、七月二十八日から八月十一日の二週間の日程で、看護学科、作業療法学科、言語聴覚学科、放射線・情報科学科、医療経営管理学科および医療福祉学科の二年生から四年生の学生三十九名が三班に分かれ、アメリカ、ベトナム、オーストラリア、の三カ国において現地の病院と諸福祉施設などで、医療福祉研修・ボランティア活動を行った。

今回の海外研修に参加した学生たちと引率した先生に、報告記事を寄せてもらった。

アメリカ

Y 米国医療に触れて

アメリカでの研修は私にとって大変有意義なものだった。アメリカの医療制度についての講義、病院や施設見学、ボランティア活動など毎日が充実し、発見の連続だった。また、現地の医療スタッフと話す機会も多く、日本の医療との違いを再認識することばかりだった。

アメリカでは主にホームケアが中心となっているため、チーム医療を円滑に行うための細かな配慮がなされており、質の高い医療は一つの分野だけで成り立つのではないということを改めて学んだ。また、アメリカ人の国民性である自立心を強く実感した。

今回アメリカで学び、経験した多くのことを、ただ日本と比較して優劣を付けるのではなく、新たな角度から医療というものを考えるための良いきっかけにしたいと思う。そして、研修での経験を糧とし、今後の自分につなげていきたいと思う。

（看護学科二年　中村眞由美）

Y 実りあるアメリカ研修

アメリカの海外研修は、日本を改めて考える良い機会を与えてくれた。

医療制度や施設・病院の仕組み、医療従事者の役割分業の徹底など日本とは異なるものばかりだった。チャイルドホスピタルでの見学は、どんなに幼い子どもに対しても一人の人間として人権が守られていて驚きを感じた。

また、約二週間の研修期間に他学科の人と交流することで、お互いがチーム医療に必要不可欠な存在であることを認識することもできた。観光旅行では味わえないこのような充実した研修の中で、多くのことを学び、吸収できたことをとても嬉しく思っている。

（看護学科二年　萩本理恵子）

＊　＊　＊

Y アメリカ海外研修を終えて

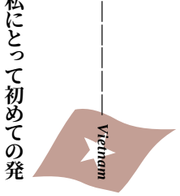
学生全員、飛行機の中から初めて目にした広大なアメリカ大陸。その感動を胸にロスでの研修が始まった。ミレニア社企画のこの研修は、内容が多岐にわたり、盛りだくさんだったので、学生たちは、私自身がアメリカで暮らして学んだアメリカ医療について、わずか二週間で、その全貌がつかめたのではないかと思う。

研修を積み、訪れた施設を見学し、町で出会う人たちと接する中で、アメリカをそれぞれに感じつつ、必然的に日本を外からの視点で考えるようになった学生八名と私。この研修まで互いに名前さえ知らなかった人もいるが、いつしか娘八人とママという家族のつながりになった。夜は互いのこと、将来のこと、文化のことと話題は尽きず語り合い、自分を見つめた。

日本の医療は変化の渦中にある。ひとまわり大きくなった八人の学生たちにはこの経験を基盤に、医療における新たな開拓者となっていってほしい。

（引率教員：看護学科　日高陵好）

ベトナム



Y ベトナム的日々

今回のベトナムは私にとって初めての発展途上国。正直、「どれほど医療のレベルは低いのだろう…」と何とも失礼なことを考えていた。しかし、幸いなことにその誤解はすぐに打ち砕かれた。日本と同じような手術が普通に行われており、病院の雰囲気はあまり変わらないように感じられた。ICUでの研修では清拭、シーツ交換、バイタルなどが特に顕著だった。大きな違いと言えば、患者が皆裸だったことだ。これは、急変時における素早い対処のため、と説明を受けたが、恐らく仕事の効率化のためと予測される。プライバシーという問題が生じてくるのはもう少し後の話だろう。

ベトナムでは病院以外でも毎日が驚きの連続だった。バイクの数や変な日本語。私としてはホーチミン市最高級ホテルのバーで飲んだことが最も印象的だった。今後のベトナムの医療技術の発展、経済発展を望まずにはいられない。あれだけのベトナミィパワーなら、アッという間に発展するだろうが。

（看護学科四年　長濱友美）

Y We Love Vietnam

ベトナムに降り立った私たちは、期待と不安で胸がいっぱいだった。活気あふれる街に圧倒され、バイクの多さと交通マナーの悪さに恐怖を覚えた。朝から夜中まで鳴り止まないクラクションの音に眠れるか心配したが、私たちは二週間の間、すぐに深い眠りにつくことができた。

チョーライ病院では、リハ室、ICU、脳外科の三カ所で三グループに分かれ活動した。リハ室のスタッフは、みんな明るく親切だった。グループ訓練、電気療法、作業療法などに参加させていただいた。学生の私たちがそこまでしていいのかと不安になるほど患者さんとの交流の場を提供してくださった。ベトナムでの研修では、日本との違いに衝撃を受け、苦しむことも多かった。しかし、それ以上に、患者さんやスタッフの人々と気持ちが通じ合えた喜びは忘れられない。

今回、英語力の無さ、医療の知識不足を痛感した。しかし、日本で自分がやるべきことが見えてきた気がする。

（言語聴覚学科三年　山田真梨絵）

＊　＊　＊

今回の海外研修の引率は、代理で急遽仰せつかったもので、学生たちとは出発直前の結団式で初めて顔を合わせる慌ただしさだった。十六名を見渡して一瞬おとなしそうに思えた第一印象は、ベトナム、ホーチミン市の空港に降り立ったとき、すぐに消えた。それからの二週間、彼女たち（男子一名含む）はひたすらはしゃぎまくり、睡眠時間を削ってよく学びよく遊んだ。ものすごいパワーだった。そろそろ電池切れかと思われたころ、プツンと旅は終わった。

楽しさ、嬉しさ、驚き、不快感までも全身で表現する学生たち。その率直な態度が、ベトナムのチョーライ病院の人たちにも微笑ましく映ったのではないかと思う。「草の根の国際交流」という言い尽くされた言葉が、こんなにも実行力のあるものだったとは。ホーチミン市の喧騒と学生たちの笑い声に包まれた二週間で私も目が覚めた。長いこと忘れていた旅への憧れのようなものを思い出した。

（引率教員：医療経営管理学科　加藤尚子）

オーストラリア

Y 刺激を受けたオーストラリア

オーストラリア研修は、他国の医療・福祉制度を学ぶと同時に、日本との違いに驚き、改めて日本の医療制度についても振り返り学ぶ良い機会となった。

オーストラリアでは、すべての国民に対して、定められた範囲内での医療が保障され、その中でも質の高い医療を提供されて

■連載エッセイ

ken・bun・roku

見・聞・録

第二回

大学院教授・国際部部長
長谷川 豊

ああ！　ナイロビ！

一九七七年十一月、当時WHO本部（スイス）に勤務していた私は初めてケニアの首都ナイロビを訪れ、研修コースの講師として一週間滞在した。

真昼間、宿舎のホテルから一人でブラブラと市内中心の、初代大統領の名前を冠したケニアッタ大通りに向かった。人通りはまばら、車もほとんど走っていない。大きな建物といえば同じく初代大統領の名前の付いた円筒形三十六階建てのケニアッタ国際会議場ビルくらい。

赤道直下に近いので太陽光線は強いが、標高一、七〇〇メートルと高地のため、年中、昼間最高気温二四～二六度、夜は、一二～一三度まで下がるが、それ以上低くなることは滅多にない。湿度は四〇度くらい、さらっとして夏の軽井沢といった感じ。雨期でもじとじとしない。こんなに環境の良いところは地球上にそうざらには無いのではないか、と思った。

滞在中に、UNEP（国連環境計画）が、国連機関として初めて、発展途上国のここケニア・ナイロビ郊外に開設したばかりのピカピカの本部事務局を見学した。私は、かつて、日本の環境庁に勤務し、UNEPに知合いがいたので、スイスも良いが、冬の厳しさを思うと、UNEP本部で働くのも悪くはないな、などと考えたものである。

私が再びナイロビを訪れたのは、それから二十年後の一九九七年八月である。同年四月、本学に採用され、大学がJICA（国際協力事業団、本年十月、独立行政法人・国際協力機構と改称）からの依頼で、本学のようにコメディカル教育を行っているケニア国立医療技術短大の教育レベル向上プロジェクトの立ち上げのための出張であった。

このとき、JICA現地事務所担当者から強く指示されたことは、「市内を絶対に一人で歩くな。移動は必ず車で」ということであった。ナイロビ人口一八〇万のうち約半数がスラムに住み、強盗が頻発、カージャックも毎日数件発生するので、車での移動も必ずしも安全とはいえない治安の悪化。かつて私が地上の楽園と思ったナイロビは幻と消えていた。

ナイロビ中心街2003年

いた。実際に病院や老人センターなどを見学した際にも、プライバシーがきちんと保護され、患者自身が施設の中で自分の家のように日々を楽しみ、生き生きと過ごしている姿を見ることができた。ホームステイでは、実際の家庭に入ることで日本との文化の違いを感じ、日本の良い所・悪い所を再発見することができた。また、年齢の近い兄弟がいたこともあり、つたない英語力なりに話題に事欠くことなく、楽しく刺激のある毎日を過ごすことができた。

オーストラリアで過ごした二週間は、多くの人々に助けられ本当に有意義で素晴らしい日々を過ごすことができた。今回得た知識と出会いを大切にし、これからの自分に役立てていきたいと思う。

（看護学科三年　野口佳美）

Y 初めての体験

私にとって海外もホームステイも初めての体験だった。緊張と不安でいっぱいだった出発前とは一転し、オーストラリアでの二週間は、毎日が楽しく、笑顔が絶えなかった。

私たちはオーストラリアの医療・福祉事情を、授業と見学を通して学んだ。授業ではオーストラリアの医療制度、高齢化社会への対応、ターミナルケア等の熱意ある話を聞き、ホスピス、老人センター、病院見学では、日本とは一味違う一面を見ることができ、とても勉強になった。また、多くの人と出会い、触れ合うことができた。

一番の楽しみだったホームステイでは、フランス人の女の子とオーストラリア人の家族に囲まれて楽しい一週間を過ごす中、英語を通してコミュニケーションを取ることで他国の文化をお互いに学び、通じ合える喜びと楽しさを知ることができた。私にとって一生忘れられない思い出となった。

（看護学科三年　武井絵美）

＊　＊　＊

Y ゴールドコーストでの海外研修・活動引率を終えて

風光明媚そして温暖な気候というゴールドコーストは、若者でにぎわうマリーンリゾートという側面と同時に、高齢者の人口比率も二五％を超えて、それを支えるさまざまな社会資源も充実している地域である。学生たちは、ホームステイや英語のクラスとともに、ナーシングホーム、ホスピス、医療施設などの見学とこれらのシステムを概観する講義を通じて、英語やオーストラリアの人々の生活を経験し、さらにオーストラリアの高齢化社会の現状についても垣間見ることができたに違いない。このような経験とともに、オーストラリアの豊かな自然の中で、ホームステイファミリーとの出会い、あるいは僅かな時間ではあったかもしれないが、各施設入所者との交流は、参加者全員にとって貴重な財産となるものと確信する。十五名の参加者全員が無事研修活動を終えることができたこと、実りある研修を支えてくださったことを、ゴールドコーストTAFEのスタッフの皆様、本学国際部の皆様に心より感謝する。

参加者一覧

アメリカ

宇賀神恵理（NS2年）
岡茉莉子（HM2年）
竹田瑠美子（NS2年）
敦賀淑日（NS2年）
中村眞由美（NS2年）＊
西まろか（HS2年）
萩本理恵子（NS2年）＊
締貫あゆみ（NS2年）

引率教員
日高陵好（看護学科・講師）＊

ベトナム

阿久津恭子（NS4年）
伊藤浩子（RT3年）
河上佳子（NS3年）
紺野真美子（HS3年）
高橋麻理（OT2年）
田島飛鳥（HS3年）
土田真一郎（HS3年）
長濱友美（NS4年）＊
西澤加奈子（NS2年）
長谷川梨絵（NS3年）
松沼千恵子（NS3年）
緑川瑛美子（NS3年）
谷口沙奈恵（NS2年）
山田真梨絵（ST3年）＊
山田美保（NS2年）
渡邊貴子（OT2年）

引率教員
加藤尚子（医療経営管理学科・講師）＊

オーストラリア

石下 洵（RT3年）
石原友樹（RT3年）
遠藤雅幸（NS2年）
川合 創（RT3年）
小林正枝（NS3年）
塩田すみれ（NS2年）
宝田良輔（RT3年）
武井絵美（NS3年）＊
田部井由希（NS2年）
塚原 瞳（NS2年）
根本香織（NS3年）
野口佳美（NS3年）＊
野坂泰子（NS2年）
早野真理（NS3年）
吉田恭子（NS3年）

引率教員
奈良進弘（作業療法学科・教授）＊

＊寄稿者

Date:October 10/15・16・17

国際福祉機器展（HCR）に参加して

十月十五～十七日に東京ビッグサイトで開催された国際福祉機器展（H.C.R.：Home Care & Rehabilitation Exhibition）に参加したので、その報告をさせていただく。

この展示会は今年で三十回を迎えた日本最大の福祉用具展示会で、出展する企業も、実に六三〇社に上る。ここ数年、来場者数は毎年十三万人を超えるとのことであった。広い会場は福祉用具の種類別にエリアが別れており、私はほぼ一日見て回ったが、それでもすべてを見ることができなかった。

来場者の疑問や相談には、企業の営業担当者が応じ、アドバイスを受けることもできた。私が話した営業担当者の中には幅広い知識を有し、自社製品の技術的知識だけでなく、臨床現場の状況や開発背景をよく把握している方もおり、それらを踏まえた上での有益な話を聞くことができた。また最新の福祉用具に実際に触れ、試用することができるのもこういった展示会ならではである。私も自助具、車いすなどの福祉用具を試してみた。

次回三十一回の国際福祉機器展は、平成十六年十月十三日（水）～十五日（金）に開催される予定となっている。学部の学生、大学院生、教職員にかかわらず非常に有意義で、しかも楽しむことができる場だと思う。平日の開催となっており、参加しにくい日程ではあるが、時間の取れる方は参加することをお勧めしたい。

（大学院福祉援助工学分野Ｍ２　窪田聡）

展示ブースでは福祉用具を使用してみることもできる

Date:October 10/19

国際協力報告会が風花祭で開催

十月十九日（日）、風花祭に合わせて「国際協力報告会」が本学および栃木県海外協力隊ＯＢ会の主催、国際協力事業団（ＪＩＣＡ）の共催、（財）栃木県国際交流協会の後援により開催された。昨年までは「青年海外協力隊帰国報告会」として協力隊活動の報告を主体に行われていたが、今年からは、さらに本学が行っている国際協力事業全般の報告も行われた。

当日は国際交流委員会委員長の細井良三教授（医療経営管理学科）の開会挨拶、協力隊の活動紹介ビデオの上映に続き、協力隊ＯＢとして、清川かおり氏（助産師）がモロッコでの活動を、河野眞先生（作業療法学科）がマラウイでの活動を、そしてマレーシアとマラウイでの活動について私石井が報告した。また、大学が行っている「ＪＩＣＡ中国リハビリテーション専門職要請プロジェクト」の報告を西條富美代先生（理学療法学科）が、「ＪＩＣＡケニア医療技術教育強化プロジェクト」の報告を長谷川豊先生（大学院教授・国際部部長）が行った。

当日は大学関係者だけでなく、大勢の地域の方々にもご来場いただき、協力隊活動や日本の国際協力について、さまざまな視点で意見交換ができたことは大変有意義であった。二時間という時間は多くのことを語るには短すぎるようにも感じたが、学内外の方々と充実した話ができ、今後につなげることができたことは何よりの収穫であった。

来年は、さらに本学の学生の活動も含め、幅広く紹介できるような企画にしていきたいと思っている。

（理学療法学科　石井博之）

Date:October 10/19

作業療法学科会・同窓会が開催

風花祭二日目の十月十九日に恒例の作業療法学科会・同窓会が大学構内にて行われた。今年は「現場での作業療法士の役割とは？を考える」をテーマに、今年度卒業の五期生六名と、一・二期生の各一名が発表した。このテーマの背景には作業療法士の職域拡大に伴い、各職場によって現実的に作業療法士に求められることが違う、つまり役割が違うことについて情報交換したいという思いがあった。

五期生発表者の職場は組織的にリハビリテーション医療を行っている三病院、精神科デイケア、介護老人保健施設、訪問看護ステーションだった。まだ働いて半年、やっと自分の職場の全容が分かってきて、地域における職場の役割を理解した上で作業療法を見つめ直し語ってくれた。ユニークな病院の方針を誇らしげに語る人、病院全体が一丸となって機能している職場での意気込みを語る人、そして福祉の職場に一人で入り奮闘している人など、それぞれの職場で奮戦している様子が手にとるように伝わってきて聴衆にとっても良い刺激になったようだ。

一期生の発表は「痴呆性高齢者に対する作業療法の根底をなす考え方」がテーマで、介護老人保健施設においても、入所者のこれまでの生活を行える場所の確保が主体的な行為を引き出し、そうした環境を作るための他職種との連携の必要性が話された。

二期生の発表は「当院の病棟との連携への取り組み―病棟ＡＤＬ訓練連絡票の作成と活用―」というテーマで、急性期病院において患者様のＡＤＬについてリハ・看護の密な連携を忙しい業務の中でどのように可能にしてきたかが話された。

この二人の発表はどちらも数年をかけて作業療法を理解してもらい、看護・介護の人々とどのように連携を深めていったかという先輩ならではの発表だった。この後の懇親会では後輩たちの質問攻めにあったのも当然のことである。

（作業療法学科　菅原洋子）

Date:November 11/2・3・9

大学院博士前期・修士課程一年 研究報告会・報告

十一月二日（大田原）、三日（東京）、九日（福岡）の三日間にわたり標記の報告会が開催された。一年生が発表する機会は、年に一度であり、これまでこの発表会は大田原、東京、福岡の三カ所をTV会議システムで結び一日で行ってきた。今年度は新しい試みとして会場毎に日を変え、それぞれ約半日を当てTV会議システムは使わず独立して行われた。各会場の様子を、参加した教員に報告していただく。

■大田原教室（11／2）

大田原本校での特徴としては、留学生の発表が行われたことを挙げることができるだろう。留学生の発表の際は、日本語だけでなく英語も交えて活発な討論が行われた。もちろん、留学生以外の発表に関しても、かなり積極的な討論が行われた。なお教室は二つで、それぞれ二十名程度が参加していた。（大学院　田中繁）

英語も交えて活発な討論が行われた

■東京サテライト教室（11／3）

東京乃木坂のサテライト教室では修士課程一年生の研究報告会が行われた。発表会は三つの教室でそれぞれ約二十名、合計五八名の院生が自分の研究について発表した。大学院に入学して半年の時点のため主にこれから行う研究計画についての内容であったが、一人ひとりの院生が自分で考え指導教員と相談した結果の非常にバラエティに富む内容であった。発表直後の質問やコメントだけでなく、発表会終了後も教員とあるいは学生同士で研究内容についてディスカッションする姿が見られ、充実した半日だった。

（大学院　山本澄子）

■福岡サテライト教室（11／9）

報告会に先立ち、昼食会では、大学院の福岡キャンパスにおける教育、研究、広報および情報伝達の問題が、理事長、大学院長、教員と事務員の参加の下に審議され、方針がより明確となった。福岡会場の大学院研究報告会は、開原大学院長、荒井、鎌倉、高橋（泰）、湯沢教授の方々に栃木より来ていただき、福岡の教授・教員の方々の出席の下に行われた。地域看護学、看護管理学、理学療法学、作業療法学、医療経営学等の十七名の大学院生の方々が発表され、研究計画の書き方や内容に関する意見はもちろんのこと、大学院における研究のあり方、引用に際して原著論文を読む必要性、研究計画や遂行における注意点など、本質的なコメントもあった。終了後には、食事をしながら、教員、学生、事務の交流会が催され、意見が談笑しつつ交換された。（大学院　高嶋幸男）

Column

大学の御神輿（おみこし）

作業療法学科　菅原洋子

風花祭のときにF棟ホールに御神輿が飾られていたことをご存知ですか。そしてそれは大学の所有であることを知っていますか。この御神輿は栃木県作業療法士会の会員の方のお父さん（宮大工）から、大学開学当初に寄付されたものです。

昨年の風花祭では、この御神輿を担いで練り歩きました。そして今年もと倉庫から取り出したところペンキはぼろぼろに剥げ落ち、あちこちにひびが入り、カビも生え始めているという無惨な状態になっていました。そこで杉原素子保健学部長が「これは何とかしなければ」とリハセンター作業療法士の依田さんと入所者の鈴木（秀）さんにお願いしてリニューアルしたのが今年の御神輿です。

鈴木（秀）さんは、これまで大工さんやペンキ屋さんだったということで、センターでも器用さにかけてはナンバーワンです。御神輿補修作業の最初はぼろぼろになった表面をきれいにすることから始まりました。実習生にインターネットで御神輿の色と飾りを決める資料を出してもらい、ペンキと飾り紐、鳳凰などを購入していよいよ飾り付けが始まりました。療護園の入所者、デイサービスの通所者、ボランティア、実習生、職員総出でひびの補修、ペンキ塗り、飾り紐編みと組み方、飾り金具の取り付け、そして鳳凰の取り付けと約三カ月間の共同作業が行われました。その間シンナーの臭いに悩まされ、飾り紐の編み方に四苦八苦し、学祭までの期限を気にしながらやっと出来上がりです。

風花祭の当日はきっと大勢の若者が御神輿を担いで練り歩いてくれるだろうと期待していたそうですが、今年は静かに鑑賞する年のようでした。来年の風花祭で担いでもらうためにも、直射日光が当たらず、風通しの良い所で保存するのが大切、ということでした。

きれいに化粧直しの済んだ御神輿

Date:November 11/8

看護学科公開学習会開催

臨床から学ぶ―これからの看護学実習にむけて―

看護過程を重視し過ぎてはいませんか。学生の優れた芽を見逃していませんか。学ぶ主体は学生です。

紅葉真っ盛りの十一月初旬、看護学科の公開学習会が開催され、今、医療看護が著しく変化する中で、看護学実習において何を大切にしていったらいいのかを、シンポジウム形式で意見交換することになった。折しも三年生は臨床看護学実習、四年生は地域実習の真最中である。

シンポジストは、教育側から、渡辺孝子看護学科教授、須田利佳子同講師、臨床側からは、小須田るみ国際医療福祉病院副看護部長、宮崎照子大田原赤十字病院看護師長、学生からは、四年生の松尾千鶴さんがそれぞれの立場で報告した。ディスカッションでは会場の学生・臨床ナース・大学院生などから、日々実習の現場にいて感じている忌憚のない意見が活発に交換された。教育側からは、実習教育は学生の持っている力を発揮できる指導方法に変わってきていること、臨床側からは、患者の安全を保障しつつ指導する困難さ、学生からは、実習中の不安と緊張が実習場を変わるたびに繰り返される現状が発表された。

シンポジストからはそれぞれの立場で報告が行われた

その中で、学生の「三年生の実習を振り返って、教員や指導者からいろいろ突っ込まれて落ち込んだり、気まずい雰囲気にいたまれなくなったが、今では未熟な学生に看護される患者の気持ちを代弁している、と理解できる」という発言が、臨床から学ぶことの中での成長の一端を伝えてくれたように思われた。（看護学科　新野峰子）

Date:November 11/8

第三十三回理学療法科学学会 学術大会報告

十一月八日（土）の十時～十七時、本学F一〇一教室で第三十三回理学療法科学学会学術大会が行われた（大会長：理学療法学科助教授・谷浩明）。

テーマは、「運動技能の獲得」で、大阪大学の橋詰謙先生による「運動スキル学習の分析方法―最近の流れ―」、大阪リゾートアンドスポーツ専門学校の門田浩二先生による「運動学習の分析―Kinematicsから Kineticsへ―」の特別講演二題のほかに八題の一般演題発表が行われた。

一般会員の他に理学療法学科の学生も多数参加した。特別講演は、やや高度な内容を含んでいたにもかかわらず、講演終了後の休憩時間に個人的に講師に質問をしにいくなど、普段あまり聞くことのない体育分野から見た運動研究を難しいと感じながらも興味を示した人が少なからずいたようだ。

特別講演での大阪大学橋詰謙先生

また、一般演題では、理学療法学科四年生の小口君、大島さん、齋藤君、藤田君らによるそれぞれの卒業研究の内容を基にした発表が四題も含まれており、一つの研究をまとめるという経験をした彼らの意識の高さをうかがうことができた。これらの発表に対する質問も活発に行われ、学術大会は盛況のうちに幕を閉じた。

準備にご協力いただいたスタッフの皆様、本当にお疲れ様でした。

（理学療法学科　谷　浩明）

Date:November 11/8

日本病院管理学会第二一九回例会が本学東京サテライトキャンパスで開催

十一月八日（土）本学東京サテライトキャンパス（アミティ乃木坂）において日本病院管理学会第二一九回例会が「慢性期医療の再構築―急性期以降における患者の流れと連携のあるべき姿」をテーマに開催された。

冒頭、開催校を代表して水巻中正医療経営管理学科長が開会の挨拶で今回のテーマの意味、わが国を代表するシンポジストを迎えた意義に触れたあと、佐藤貴一郎教授の司会でシンポジウムが進行した。まず、本学の高橋泰教授から議論の方向づけとして医療提供体制に関する改革ビジョン案とDPC導入を視野に入れた今後の病院経営の厳しい状況に対応するあるべき姿が提示された。

ついで各論として、まずリハビリテーションの立場から石川誠先生（日本リハビリテーション病院・施設協会副会長）は急性期から回復期、維持期へと流れる「リハ医療の機能分化と継続性」の重要性と有効性を事例紹介とともに示し、急性期以降の医療の立場から猪口雄二先生（四病院団体協議会 診療報酬委員会委員長）は病院病床の区分や機能の明確化・重点化の中で急性期病棟からの患者を受け入れ、利用者の状態を考慮した地域・在宅医療の後方支援を行う「地域一般病棟」の役割と機能、そして「亜急性医療」の位置づけを提示した。そして佐藤美穂子先生（日本訪問看護振興財団常務理事）からは看護の立場から、訪問看護の実践を踏まえた地域ケアにおける訪問看護ステーションの役割と課題、さらに「通所介護」モデルへの展開について報告がなされた。いずれも今後の医療界において重要なキーコンセプトやキーワードになることが推察された。

こうした報告に基づいて報告者間の討論では急性期以降の医療や介護の在り方に関する機能と連携の実現可能性が議論され、約八十名の出席者からの「疾病の発生から急性、リハビリ、在宅へと患者の流れを誰が中心となって動かすのか？」といった現状に即した質問に対し、コーディネート機能や個々の患者に関する医療・介護情報の共有の在り方が示された。この他にも会場からは回復期リハビリテーションや通所介護に関する質問などが寄せられ、活発な討論のもと、今後の議論の高まりに期待をしつつ閉会となった。

（医療経営管理学科　磯　伸彦）

共に生きる社会

人（ひと）

第二回

国際医療福祉大学学長
谷 修一

厚生省に勤務していた十数年前、厚生大臣に小泉純一郎氏が就任された。小泉さんは役所の文書や予算に出てくる用語に、カタカナ語が多すぎると指摘され、お年寄りにも分かる日本語に言い換えて表現しろとの指示を出された。当時私は大臣官房の課長をしていて、作業チームの一員として対応した。

小泉大臣が、先人たちが苦労して外来語を素晴らしい日本語にした例としてあげたのは、「民主主義」、「共産主義」などの他、映画好きの政治家らしく、「慕情」、「めぐり会い」などの洋画の題名だった。

整理してみると、カタカナ語は非常に多く、われわれが多くの言葉を安易に使っていたことを改めて思い知らされた。シルバーホーム（老人ホーム）、デイケア、デイサービス、フェニックス計画（ごみの再生利用施設整備計画）等々あげればキリがない。これらの中には、今日では日本語として定着したものもあるが、どうしても訳せない言葉に、「ノーマライゼイション」があった。北欧で始まった健常者と障害者とが共存する地域社会を目指す理念で、日本の社会にはなかった概念だけに、大臣好みの簡潔で短い表現が思いつかない。さすがの小泉さんも折れて、この言葉だけは注釈をつけて使うことで了承を得た。数行に及ぶ長い説明を書いたと記憶している。

国際医療福祉大学で仕事をするようになって、大学の教育理念の中に「共に生きる社会」という言葉を見つけた。これだ、これだ、これがノーマライゼイションだったんだと気がつき、この考え方が社会の中に普通のこととして受け入れられるようになるまで、本学の理念として大切にしなければならない言葉だと思っている。

プロフィール
千葉大学医学部卒。医学博士。厚生省（現厚生労働省）保健医療局長、健康政策局長を歴任。在任中は、医療制度、医療保険、介護保険、医療の人材育成、医療制度改革など主として医療政策にかかわる。

教員紹介

Profile

①現在の所属・職位 ②生年月日 ③最終学歴、要著書・論文 ④専門分野 ⑤前職 ⑥主 ⑦本校における担当科目 ⑧今後の研究課題

佐々木博（ササキ・ヒロシ）

①放射線・情報科学科教授／②1942年10月27日／③東北大学大学院工学研究科博士課程終了、工学博士／④電子音響学、医用超音波／⑤株式会社東芝、医用システム社、首席技監／⑥表面電子工学（分担執筆、コロナ社、バイオエンジニアリング（分担執筆、培風館）、超音波プローブ設計の基礎（東芝）／⑦基礎物理学、医用超音波論／⑧超音波センサーの研究

森田秋子（モリタ・アキコ）

①保健学部言語聴覚学科講師／②1957年8月30日／③筑波大学修士課程教育研究科カウンセリング専攻／④成人言語障害学（失語症、高次脳機能障害）／⑤医療法人慈誠会徳丸病院／⑥左半側空間無視に関するもの／⑦成人言語障害学／⑧高次脳機能障害の回復と予後、ADLとの関係

Stacey Vye（ステーシィ・ヴァイ）

①語学教育センター講師／②1964年11月23日／③コロンビア大学ティーチャーズカレッジ、MA／④TESOL MA (Teaching English as a Second or Other Language)／⑤作新学院大学英語講師／⑥Skier, E. & Vye, S. (2003) One Reality of Autonomous Learning in Japan. In A. Barfield & M. Nix (Eds.) *Autonomy You Ask!* Tokyo：Pukeko. pp27-40.／⑦English Communicative Strategies 1. English Communicative Strategies 2. Repeater's Communicative Strategies 1.／⑧Learner and Teacher Development of Languages Autonomy in EFL/ESL

曹 光仁（チョウ・クァンイン）

①医療経営管理学科助手／②1965年9月15日／③杏林大学大学院保健学研究科博士過程（保健学博士）／④保健学、老年学、公衆衛生学／⑥地理情報システムを用いた通所介護施設への地域高齢者の地理的アクセス推計の試み（日本公衆衛生学会誌）、韓国一農村に開設された老人福祉館の利用者と非利用者の特性の違い（杏林医学会誌）／⑦医療福祉施設管理実習Ⅱ・Ⅲ／⑧地域高齢者の生活スタイルと生命予後、韓国における福祉施設利用者と非利用者の違い、韓国農漁村においての職業病と習慣的薬物服用について

林由美子（ハヤシ・ユミコ）

①保健学部作業療法学科助手／②1965年2月2日／③国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学修了／④発達障害作業療法および老年期障害作業療法／⑤ブリッジ・エーシア・ジャパン・ベトナムおよびワールド・ビジョン・インターナショナル・ベトナム（NPO）／⑥介護老人保健施設における転倒防止に関する連携の形とその効果／⑦臨床実習指導／⑧ベトナムにおける作業療法サービスの開発に向けた教育方策

新野峰子（ニイノ・ミネコ）

①保健学部看護学科助手／②1958年3月9日／③放送大学／④看護学／⑤東京都小平市障害者福祉センター／⑥筋萎縮性側索硬化症患者の日常生活の工夫、精神科デイケア通所者の年齢の推移と活動内容の見直し、他／⑦看護学実習補助／⑧慢性期患者の看護評価

（11ページに記事）

Information Atami

附属熱海病院

第二回治験審査委員会が開催される

平成十五年十月三十日に附属熱海病院の第二回治験審査委員会が開催されました。今回は治験審査一件「BIBR二七七（テルミサルタン）」について審議されました。治験責任医師である下田講師と治験分担医師である田中教授からこの治験に関する詳細な説明があり、その後各委員からの質疑応答が行われました。治験審査委員会ではこの件について基本的には了承し、治験審査が始まることになります。

当日はさらに治験業務手順について北川助教授より説明がありました。当院の治験審査委員会は藤澤教授を委員長として八名の委員で構成されており、CIRB（中央治験審査委員会）と連携をとりながら行われています。

心臓カテーテル検査始まる

心臓カテーテル検査が当院でも始まりました。心臓カテーテル検査は末梢の動脈あるいは静脈から大血管や心臓内へカテーテルを挿入し、心臓、大血管内の圧曲線分析、血液ガス分析、心拍出量測定、選択的心臓血管造影法を行い、心機能、血行動態、形態を調べるものであり、診断の確定や手術の適応の決定、予後の予測等に役立てられています。また、この検査は、心筋生検や電気生理学的検査（ペーシングスタディ）、血栓溶解、血管拡張等の治療としても応用されています。当院では循環器科の重政助教授と生駒講師が担当しております。

順調に進む附属熱海病院の新築工事

平成十四年七月一日に国立熱海病院を承継して国際医療福祉大学附属熱海病院が開院すると同時に、スタッフを充実させて新しい診療科の開設を行い、新規に国内最大級の一・五テスラMRIを設置するなど医療機器の購入、また建物の整備などに着手し、地域の基幹病院としてふさわしい病院づくりを行ってまいりました。現在では外来患者数が一日六〇〇名を超える日もあり、今後さらに充実した医療サービスを提供するために新しい病院建物の建設が始まっています。予定では平成十七年七月には新しい病院建物で診療を開始することにしており、その建設工事が順調に進んでいます。今回はその様子を皆様にお伝えいたします。

新病院は現在の病院の北東側（神奈川寄り）に建設中で、相模灘を一望できる海岸沿いにあり、温暖な伊豆の気候と相まって、非常に環境のよい立地条件にあります。また院内に温泉源があるのも特長の一つです。

▼新病院の基本的な考え方

主要診療科目においてそれぞれが地域センター的な役割を担えるように人材、設備を充実し同時に本学附属病院として必要な教授室、研究室、図書室、研修施設等を設置して一貫した教育、研究、実践に適する環境整備を行うこととしています。

また近代的医療に必要な最新の設備はもちろんのこと、温泉が利用できる熱海市に立地するメリットを生かすアメニティに加え、ゆとりある居住空間を確保した療養スペースなど「二十一世紀医療にふさわしい病院」を目指しております。

▼診療機能について

新病院にあっては、各手術や検査などの高度先端医療を実施するに適した機能を整備するとともに地域の中核的病院であるにふさわしい診療科目を設定する予定です。特に医療の高度専門化傾向に応じ、外来診療においては身体の各機能に対応する専門診療科をバランスよく配置し、他医療機関からの紹介患者も積極的に受け入れ、真に地域に奉仕する大学病院として二十一世紀における先端医療を担いたいと考えています。

そのほか小児医療の充実やセンター方式による診療体制設置（眼科など）、また本学の専門性が生かせる分野であるリハビリテーションの強化などを検討しています。

▼建築について

新病院の建築は敷地条件の分析（環境、眺望、温泉の源泉付きなど）に基づき、次のコンセプトにより計画しています。

一、傾斜地としての特異性を有効活用
二、明るく開放感を満喫できる空間の創造
三、豊かな自然を享受できる快適な療養環境づくり
四、フロア単位での明確な機能分離
五、分かりやすい動線計画、安全性の確保
六、東海地震に配慮し免震構造を採用した安全な施設

平成十七年七月の新病院オープンにご期待下さい。

（附属熱海病院 本山聡洋）

平成17年7月オープンを目指し順調に工事が進む

Information Nishinasuno 1

国際医療福祉病院

定位放射線治療装置「Cアームライナック」を設置

国際医療福祉大学の臨床医学研究センターとしての機能も果たす当院は各種の高度な医療機器を有しています。中でもCアームライナックは栃木県下でも初の設置となる日本でも有数の装置です。現在は放射線科の青木、福留の二名の先生がこの装置で多くの患者様の放射線治療に当たっています。

この装置は、定位放射線治療の装置として患者様の体を切開せずに脳腫瘍などの病変部を治療できます。病変部を中心とした狭い領域に多方向から放射線を照射することにより、周辺正常組織への被曝を抑えながら病変部に高い線量を照射できるため、開頭手術ができない症例や手術に耐えられない老人や小児などの患者様にも治療が可能であり、術後回復も早いなどの特徴があります。また、患者様を動かさずに三次元照射が可能（全立体の八七％の方向より照射可能）であり、安全かつ的確で治療範囲も広いため、大きな成果をあげています。

国際医療福祉病院

定位放射線治療装置「Cアームライナック」

Information Nishinasuno 2

介護老人保健施設マロニエ苑

マロニエ苑は、平成二年十月に栃木県内四番目の老人保健施設として開設し、今年で十四年目を迎えました。入所定員二〇〇床（ショートステイ含む、個室二〇、二床室一〇、四床室四〇）と、在宅サービス事業として通所リハビリテーション（定員五〇）・通所介護（定員三〇）・居宅介護支援事業者サービス提供を行っています。関連の国際医療福祉大学の実習・研修施設として、保健学部・医療福祉学部各科の学生を受け入れており、医療福祉における人材育成の一環を担っています。また、全国老人保健施設協会の実地研修指定施設（全国一〇三、県内二施設）である当施設は、入所者の処遇の適正とサービスの向上を図ることを目的に、年二回の実地研修を開催、研修に参加いただいた他施設職員の皆さんのみならず、当施設の職員も研修を通じ、勉強と自己研鑽を繰り返しています。明るく家庭的な雰囲気の中で、看護・介護のサービスと併せて充実したリハビリスタッフが機能回復訓練を行うことで、入所者・利用者が家庭や社会へ一日でも早く復帰できるようお手伝いしています。

当施設は国際医療福祉病院に併設しており、常勤ドクターの他、精神神経科・歯科・眼科の往診も受けられ、充実した医療体制も整っています。また、敷地内には自前の温泉があり、良質な一〇〇％天然温泉を一般浴でご使用いただいています。

Information Nishinasuno 3

にしなすの総合在宅ケアセンター

当センターは、マロニエ苑の在宅サービス事業として平成十二年四月に介護保険制度開始と同時に開設いたしました。居宅介護支援事業者・通所リハビリテーション（定員五〇）・通所介護（定員三〇）・訪問看護・訪問介護の五つの在宅サービス提供を行っています。通所リハビリと通所介護の二つのサービスを同一施設内で提供しており、利用者それぞれのニーズに合ったサービスの提供をしています。特に通所リハビリにおいては利用者それぞれのプランを実施し、機能回復訓練のお手伝いをさせていただいています。

マロニエ苑同様、国際医療福祉病院に併設されていますので病院をご利用される患者様や退院された方の在宅支援として、訪問看護・訪問介護・居宅介護支援相談等のサービス提供も行っています。

Information Nishinasuno 4

特別養護老人ホーム栃の実荘

栃の実荘は、栃木県内四十五番目の特別養護老人ホームとして平成六年七月に開設されました。敷地面積二、七三三平方メートルの、豊かな自然に囲まれた環境で、特別養護老人ホーム（定員五二名）・ショートステイ事業（定員一〇名）・老人デイサービスセンター（定員二〇名）・ホームヘルプサービス（支援費制度含む）・在宅介護支援センター（居宅介護支援）の五事業を実施しています。

施設では天然の温泉を利用しているため入所者・利用者の方々に大変喜ばれています。また、併設されている「国際医療福祉病院」・「介護老人保健施設マロニエ苑」と常に連携体制を取りながら、医療・保健・福祉の充実を図っています。

また、国際医療福祉大学の学生をはじめとする各種ボランティアの受け入れや、実習施設としての役割も十分に発揮しています。

（国際医療福祉病院　福田明宏）

Information Ohtawara

国際医療福祉リハビリテーションセンター

十一月二日「第二回いきいきらい・ふェスタ」が開催される

十一月二日（日）に国際医療福祉大学で「第二回いきいきらいふフェスター那須発福祉機器試乗会・試用会」が体育館とカフェテリア棟で開催された。

これは、国際医療福祉大学と国際医療福祉リハビリテーションセンター、および那須地域の福祉活動グループ「Big And Little Hands」が共催して行う福祉機器展示会である。

今回は車いすや介護機器に加え、遊具や福祉車輌の展示など、幅広い分野の展示があった。普段、なかなか情報を得るのが難しく、カタログなどでしか目にすることのない福祉機器に実際に触れ、試用や試乗ができたことは、とてもよい機会であったと思う。

また、今回は大学の展示スペースを設け、自助具の展示や、大学生グループL&Bによる福祉機器デザインコンテストの展示も行った。

カフェテリアではバンド演奏や福祉作業所で作られた作品の販売などが行われ、終日にぎわっていた。

私は実行委員に加えていただいたが、この機器展も今回で二回目。まだまだ試行錯誤をしながらではあるが、地域に根付いた福祉機器展として、これからもっともっと盛り上げていきたいと思っている。

（理学療法学科　石井博之）

大学体育館を会場に開催

国際医療福祉大学の展示コーナー

Information Sannoh

山王病院

リプロダクションセンター
最先端の治療を患者様本位に行うために

山王病院院長　井上正人

近年、不妊症の治療は大きく進歩しました。卵管性不妊や子宮内膜症の治療は、開腹手術から、腹腔鏡下手術に変わってきました。子宮筋腫の治療も開腹による核手術の他、腹腔鏡下、子宮鏡下手術、さらには子宮動脈塞栓術、収束超音波療法と多様化してきました。

体外受精や胚の凍結保存はもはや特殊な治療法ではありません。不妊症一般に広く用いられています。顕微授精は男性不妊に対する究極の治療法として、乏精子症や精子無力症だけでなく無精子症（約半数は精巣より精子回収可能）にも適用されています。体外受精や顕微授精の反復不成功例の取り扱いも重要な問題です。このような症例に対して、私どもは受精卵の卵管内移植を積極的に行っています。

山王病院のリプロダクションセンターは、多様化した最先端の治療を患者様本位に行うために、平成八年に設立されました。この目的を達成するためには、麻酔科や泌尿器科の協力が不可欠です。院外のエキスパートの協力も非常に重要です。当センターの特徴は、

①年末年始以外は年中無休
②腹腔鏡下診断、治療（通算約九千例、日本最多）は一泊二日の入院、同時に卵管鏡、子宮鏡検査を行う
③麻酔科医と麻酔下採卵
④卵管内移植は随時可能

などです。

センターがさらに発展するためには、多くの面で一層の努力が必要です。皆様のご協力、今後ともよろしくお願いいたします。

SKY PerfecTV! Health & Welfare 774

「医療福祉チャンネル774」ご視聴のススメ

医療福祉チャンネル774では、衛星放送スカイパーフェクTV！774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送！

７７４の受験講座

今注目の医療福祉系資格取得を目指す774チャンネルの「受験講座」。新たに資格取得にチャレンジしたい！ 仕事でキャリアアップしたい！ あなたの願いをかなえるパワフルな講義で合格を目指します！

＜受験講座ラインナップ＞
社会福祉士受験講座・ケアマネジャー受験講座・福祉住環境コーディネーター２級受験講座・介護福祉士受験講座

「社会福祉士受験講座2004」の鈴木五郎医療福祉学部長・学科長・教授

国際医療福祉大学アワー

国際医療福祉大学で行われた催しの紹介を中心にお届けする国際医療福祉大学アワー！ 体育祭や文化祭、公開講座に学科紹介と、これを見れば、国際医療福祉大学の毎月の様子が分かります。
また、大学周辺の見所を、楽しい映像やインタビューを交えて紹介するコーナーもあり、充実した内容で好評放送中！ 是非ご覧下さい。

第８回「風花祭」の模様も放送

●医療福祉チャンネルを見るには
「医療福祉チャンネル774」は衛星放送スカイパーフェクTV！の774チャンネルでご視聴いただけます。
ご視聴には、スカイパーフェクTV！専用アンテナ＆チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ！
○視聴料・・・月額2,000円（税別）／法人契約：5,000円（税別）
（このほかに、スカイパーフェクTV！加入料・・・2,800円（税別・初回のみ）・スカイパーフェクTV！月額基本料・・・390円（税別）がかかります。）
○IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問合せ下さい。

●視聴に関するお問い合せは
フリーダイヤル 0120-870-774（お客さま係）　Eメール info@iryoufukushi.com　ホームページ www.iryoufukushi.com

IUHW BOOKS 国際医療福祉大学出版会新刊書のご案内

ケースワーク援助の方法と技法を事例を取り入れながら分かりやすく解説
「ケースワーク援助の理論と実際」

著者：大島實（国際医療福祉大学教授）
A5判、約286頁、ソフトカバー
定価：本体2,800円＋税

これから社会福祉学を学ぼうとするすべての初学者のための入門書
「入門・社会福祉学」

編者：国際医療福祉大学医療福祉学科／監修：鈴木五郎（医療福祉学部長・学科長・教授）／B5判、392頁
定価：本体2,800円＋税

医療・経営管理職育成のためのバイブル
「三訂 医療・福祉経営管理入門」

編著：国際医療福祉大学医療経営管理学科／B5判、540頁、ソフトカバー
定価：本体3,800円＋税

NPO運営のための画期的な手引き書
「福祉ＮＰＯの挑戦―コミュニティケアの経営管理」

監修：水巻中正（国際医療福祉大学教授）／著者：橋口徹・福原康司（国際医療福祉大学）・水谷正夫（NPO人材開発機構）／A5判、378頁、ソフトカバー
定価：本体3,000円＋税

ご注文は、国際医療福祉大学出版会まで　〒107-0062 東京都港区南青山1-24-1アミティ乃木坂3階　電話03-5414-6098 FAX03-5414-6096
E-mail：press@iuhw.ac.jp http：//press.iuhw.ac.jp

発行：国際医療福祉大学
編集部
（東京）
〒107-0062
東京都港区南青山一-二四-一
アミティ乃木坂三階
電話 〇三-五四一四-六〇九八
（大田原）
〒324-8501
栃木県大田原市北金丸二六〇〇-一
国際医療福祉大学内
電話 〇二八七-二四-三〇〇〇
表紙・特集写真：加藤文哉
デザイン：アイ・デプト

IUHW短信

IUHW Note

●8月31日(日)に行われた少林寺拳法栃木県大会において、組演舞女子有段の部で、田辺瑶子(作業療法学科３年)と宮川理恵(看護学科４年)が優秀賞を獲得した。

●10月7日(火)、本学恒例の「海外研修・活動」で、アメリカ・ベトナム・オーストラリアで研修活動を行った参加者の報告会が大田原本校で行われた。(6～8面に関係記事)

●10月20日(月)、大田原本校のE101教室で、教員研修会が開催された。

●吉村記念厚生政策研究助成基金募集論文に本学大学院河口洋行助教授の「持続可能性を強化する統合リスク管理の導入」が入賞。

●10月26日(水)から静岡県で行われた秋の国民体育大会青年女子弓道の部に、飯島理恵(看護学科４年)が栃木県代表として出場した。